



小野塚ゼミ

木曜4限

本題の前に

経済史は、歴史をたどることで、過去と今のつながりを学び、現代社会を再度再定義する学問です。そのため、ミクロ経済学のように企業の利潤を算出することも、経営学のようにマーケティングを駆使して顧客価値や次世代トレンドを創出することもできません。ではなぜ経済史を学ぶのか。歴史を学ぶことは一見非生産的な行為ですが、そこには先人からの知恵や教訓、洞察が数多く隠れています。経済史は実体経済を動かすことはなかなかできません。しかし、長期的な視点から、実体経済の目指すべき未来やそのための指針を見出すことができます。

弊ゼミでは、年度によりますが、基本的には経済史に関連した著作を輪読しつつ、時にはゼミ生自ら読みたい本を決めて幅広いテーマを取り扱い、議論を深めあっています

2021年度ゼミテーマ

○講義題目

「グローバル経済を破壊した力：ナショナリズム、ポピュリズム、被害者意識」

○概要

第一次世界大戦前の世界経済は、第一のグローバル経済と称されるように、きわめて密接に結びつき、円滑かつ循環的に発展していました。しかし、1914年の夏のある日、第一次世界大戦は突然勃発して、緊密に結び付いていたグローバル経済は瞬時に破壊されてしまったのです。では、誰も望んでいなかった不条理で不合理な戦争はなぜ発生したのでしょうか。通説を離れて、開戦原因を冷静に再考することは、第一のグローバル経済が破壊された理由を知るために有益なだけでなく、現在の東アジア・東南アジアに生きるわたしたちには喫緊の課題です。

簡単には、『週刊エコノミスト』2017年1月3・10日合併号に掲載された小野塚知二「[被害者意識に彩られたナショナリズムへの回帰](#)」を予め読んでおいて下さい。

小野塚知二 教授

1981年東京大学経済学科卒業後、修士・博士課程を経て、2001年より東京大学大学院研究科教授

研究テーマ

西洋経済史、近現代欧米社会経済史、ヨーロッパ統合史、労務管理史、兵器産業・武器移転史

近著

『経済史：今を知り未来を生きるために』有斐閣、2018年

『大塚久雄から資本主義と共同体を考える—コモンウィール・結社・宗教』

日本経済評論者、2018年



活動内容

○ある特定のテーマに関する著書の輪読

具体的には、まずそれぞれの担当範囲を設定し、発表スケジュールを立てます。担当者は、自分の担当範囲分を読んだ上で発表資料を作成して、ゼミで内容を発表します。発表時に、その担当箇所を読んで議論したいと感じたことをあげてもらい、その点について全員で議論を行います。

1回のゼミで、3~4人が発表という感じです。

担当になる頻度は、読む本やゼミ生の人数にもよりますが、大体1タームに1回か、1セメスターに1回くらいです。

○卒論執筆 & 中間報告

ゼミの輪読本とは別に、自分でテーマを設定して個人研究を進め、夏合宿やAセメスター後半あたりで、自分の研究の途中経過を発表します

取り扱い書物（2020年度）

○2020年Sセメスター

『「定常経済」は可能だ！』ハーマン・デイリー

『経済成長という呪い—欲望と進歩の人類史』ダニエル・コーエン

○2020年Aセメスター

『人口減少社会のデザイン』広井良典

○プロアクティブラーニングセミナー（いわゆるサブゼミ：希望者のみ）

『自由論』ジョン・スチュアート・ミル



こんな方におすすめ！

○自由にテーマを決めて卒論を書いてみたい

→卒論のテーマは完全に自由。自分の書きたいテーマを選んで書けます

○議論好きな人

→特定のテーマについて、自分たちで論点を設定して議論することができます

○経済史に興味がある

→前提知識や深い知識は必要ありません。純粋に興味がある人は大歓迎です

○珍しい料理を作ってみたい

→教授は東大料理グローバル研究連携ユニット代表でもあるので、世界のいろいろな料理を作れます

○猫が好き

→教授は野良猫研究でも著名な方です。猫好きな方はぜひ弊ゼミへ！

年間行事予定（例年のもの）

- 5月 新歓コンパ
- 9月 夏合宿@箱根
- 10月 フットサル大会
- 12月 OBOG会@本郷近辺

- 2月 調理実習@湯島
- 3月 追いコン



特色 1 「卒論テーマが自由」

○「良い論文が書けるのは興味のある分野について書くとき」と教授は考えており、生徒の興味・関心を尊重していただきます。

→テーマ例：「プロ野球の地域密着型経営」「2000年代以降の日本の労使関係」「カジノ開業と経済的波及の関係性」など多岐にわたります

○卒論執筆にあたって、夏合宿では小野塚ゼミの過去の卒業生の方々からフィードバックをいただいだけ、通常のゼミでは教授から様々なアドバイスをいただいけるので、余裕を持って取り組めます。

特色 2 「調理実習」

料理への造詣の深い教授のご指導のもと、世界の料理を作ります。

教授曰く、料理は科学的・創造的なプロセスであり、料理を学ぶことはゼミの通常授業に匹敵するほど意義のあることだそうです。

19年度はゼミ生の希望でオーストリア宮廷料理を再現したようです

また、去年の調理実習のレポートをnoteにまとめてくださった方がいらっしゃるなので、気になる方はそちらも読んでみてください

[こちら](#)から飛べます



選考情報

○募集は10人

書類は、

- ①これまで読んだ書物と履修した講義の中で印象に残ったもの
- ②関心の所在と研究してみたいテーマ
- ③この演習を志望する理由

の3点を2000字から4000字でA4横書きのエッセイにまとめ、学部所定の書類とともに提出。面接を行う可能性もあるため、メールアドレスの併記もお願いします。

締切の日時は経済学部ホームページやTwitter (@onozukazemi2021) にてご確認をお願いします。

○4年次からの新規参加は可能ですが、

その場合は書類提出に先立って個別に相談をお願いしています。